http://decfamily.p1.bindsite.jp/2016/

We 13R

No.081　16/09/21

担任の感想（辛口）

　最後の行事で13Rの秘めたる？力が発揮できて本当によかった。一昨日の最後のミーティングでも言ったけれど、私は学年１位のクラスの劇も見ているが、公演そのものの長さや無意味な暗転がないこと、そして、何よりセリフと演技で勝負することを考えてると、どう考えても13Rの方が優れていたと思う。もし全員に、１位のクラスと13Rの劇を両方見てもらえれば、全員が13Rに投票するに違いない。

＊

　しかし、こうやって一度星陵祭を体験してみると、どうして３年生があれだけのものを作れるのか、分かってきたのではないだろうか。例えば、演技は「セリフを暗記していないと始まらない」ということが、確実に実感できたはずだ。照明や効果音にしたって、通し練習ができるようになって初めて決まってくる。そのことを考えると、役者諸君が夏休み中にしっかりと台本を頭に入れることが、いかに大切かということである。

　そのことを経験している３年生は、夏休み中にはセリフを頭に入れて、すでに立ち稽古を始めていた。そして、９月になってから、照明や効果音の最終的なブラッシュアップをしていったわけである。前日に照明の相談をしていたクラスとは大違いというわけだ。

　さらに、２・３年ではクラス替えがない。だから、２年生の時の経験を通して、誰がどんな仕事にふさわしいか、クラス全員がよく心得ているのである。

　13Rでも、今回の準備を通して、誰が大きな声だけ出して、実際には大切なところで何もしない人なのか、一方、誰が声は出さなくても、受け持った仕事を最後まで責任をもってこなす人なのか、きっと分かったはずである。同時に、自分はこういう仕事に向いているなぁということを実感した人もいれば、来年は違うことにチャレンジしてみようかなと思った人もいるだろう。ぜひ、今年の経験を来年に結びつけ、それをさらにその先へと結びつけてほしい。

＊

　最後に一言。役者諸君は、もっと台本を大切にしないといけない。13Rの台本がどのレベルのもの（原作そのものなのか、先輩が編集したものなのか、自分たちで編集したものなのか…）は分からないが、原作者はプロであって、そのプロが精魂込めて創作した台本を、役者が自分のセリフの感覚（自分がしゃべる感覚）と合わないからと言って、勝手にアレンジしてイイというものではない。特に、今回の劇の場合は、「言葉遊び」が重要な要素となっていることは明らかだろう。とすれば、原作者は「言葉」に相当神経を使って台本を作っているはずだし、登場人物たちのセリフ（言葉遣い）も、下人のニキビではないが、原作者が自ら設定した人物にふさわしい言葉遣いをさせているはずなのである。それを、君たちレベルの役者が、安易にアレンジしてイイはずなどないのである。

　同時に、見に来て下さる観客に対して、常に同じパフォーマンスの演技を見せるためにも、毎回同じセリフ、同じ演技をすることが求められるわけで、アドリブなどの不確定要素は（原則として）持ち込むべきではないのである。そんなことも勉強してほしい。